

大阪IR・カジノのダメすぎる2つのポイント。

POINT 1 そもそもIRの規模がシヨボ過ぎる…

大阪IRの総延床面積は2/3、展示場は1/5に削減され、もはや当初から標榜してきた「世界最高水準のIR」とはとても言えません。IRカジノの計画は維新・公明の賛成で、可決されました。次に契約(実施協定)締結ですが、契約後にもIR事業者はさらなる規模の縮小、開業前の撤退が可能です。事業者が撤退したら、それまでの投資は全て無駄に…。

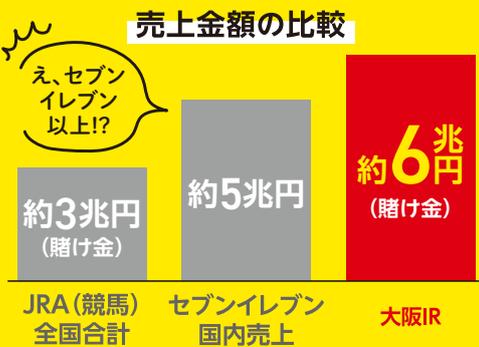
おもてたんと
違う…



世界最高水準どころか、インテックス大阪(7万㎡)の1/3以下。築40年近いインテックス大阪の代わりになるはずが…。

POINT 2 なんぼなんでもそんなに儲からんやろ…

松井市長の言う「経済波及効果1兆円超、納付金等収入1,060億円」を達成するには、カジノで年間約6兆円*の賭け金が必要です。



年間1,070万人が入場料6,000円を払ってカジノに来場し、(日本中の20歳以上の10人に1人) その全員が60万円を賭ける一日あたり60万想定なんです。

*大阪IRのカジノ客は年間1,070万人と想定されています。

規模は縮小したのに、なぜかどんどん好転するナゾの収支予測。これ本当なの?



大阪IRのカジノは、マカオの約1.5倍、ラスベガスの約7倍の粗利益を出す計算(カジノ面積比)。当初の計画からたった2年の間に経済波及効果の予測額・収入見込み額は1.5倍に増えました。しかし、増えた根拠は「事業者がそう言っている」というだけ。なぜ増えるのかは説明されていません。